

弁護士数が少ない単位会における弁護士人口の推移表

地区名	1994年	増加数1	2004年	増加数2	2014年	増加数	2017年	増加率1	増加率2	増加率3	増加率4
旭川	20	11	31	37	68	6	74	155.0	219.4	340.0	108.8
島根県	21	5	26	45	71	11	82	123.8	273.1	338.1	115.5
釧路	21	9	30	40	70	7	77	142.9	233.3	333.3	110.0
函館	22	3	25	23	48	7	55	113.6	192.0	218.2	114.6
鳥取県	25	1	26	42	68	-4	64	104.0	261.5	272.0	94.1
佐賀県	27	13	40	57	97	6	103	148.1	242.5	359.3	106.2
福井	33	10	43	55	98	6	104	130.3	227.9	297.0	106.1
岩手	33	17	50	49	99	6	105	151.5	198.0	300.0	106.1
滋賀	37	11	48	91	139	7	146	129.7	289.6	375.7	105.0
青森県	43	1	44	72	116	1	117	102.3	263.6	269.8	100.9
山梨県	45	15	60	57	117	4	121	133.3	195.0	260.0	103.4
徳島	45	4	49	42	91	6	97	108.9	185.7	202.2	106.6
山形県	46	6	52	40	92	8	100	113.0	176.9	200.0	108.7
高知	47	9	56	30	86	3	89	119.1	153.6	183.0	103.5
秋田	49	3	52	26	78	1	79	106.1	150.0	159.2	101.3
富山県	50	4	54	52	106	16	122	108.0	196.3	212.0	115.1
宮崎県	50	9	59	64	123	15	138	118.0	208.5	246.0	112.2
奈良	56	35	91	66	157	13	170	162.5	172.5	280.4	108.3
和歌山	57	15	72	68	140	3	143	126.3	194.4	245.6	102.1
三重	61	18	79	92	171	16	187	129.5	216.5	280.3	109.4
山口県	62	14	76	73	149	23	172	122.6	196.1	240.3	115.4
大分県	63	7	70	70	140	20	160	111.1	200.0	222.2	114.3
長崎県	65	10	75	86	161	0	161	115.4	214.7	247.7	100.0
金沢	68	18	86	80	166	6	172	126.5	193.0	244.1	103.6
鹿児島県	70	15	85	99	184	23	207	121.4	216.5	262.9	112.5
福島県	70	17	87	90	177	23	200	124.3	203.4	252.9	113.0
愛媛	77	16	93	66	159	4	163	120.8	171.0	206.5	102.5
岐阜県	79	13	92	86	178	16	194	116.5	193.5	225.3	109.0
香川県	83	2	85	77	162	12	174	102.4	190.6	195.2	107.4
茨城県	84	15	99	146	245	32	277	117.9	247.5	291.7	113.1
栃木県	88	15	103	94	197	20	217	117.0	191.3	223.9	110.2
長野県	99	18	117	111	228	18	246	118.2	194.9	230.3	107.9
熊本県	100	15	115	129	244	29	273	115.0	212.2	244.0	111.9
小計	1,796	374	2,170	2,255	4,425	364	4,789	120.8	203.9	246.4	108.2
総会員数	14,809	5,415	20,224	14,821	35,045	3,853	38,898				
比率	12.12	136.56	10.72	173.28	12.62	110.99	12.31				

※1 ※2 ※3 ※4

- ※1 1994年から2004年までの増加率
- ※2 2004年から2014年までの増加率
- ※3 1994年から2014年までの増加率
- ※4 2014年から2017年までの増加率

読み取れること

- ① 1994年の段階で会員数100名以下の単位会は35単位会であるが、2017年には8単位会に減少。
- ② 2004年から2014年にかけて増加率が2倍を超える単位会が16単位会にもなっている。
- ③ 2004年から2014年にかけての増加率は35単位会の平均でも2倍を超えるものとなっている。
- ④ 2004年から2014年にかけては、弁護士人口が少ない地域での弁護士の増加が平均よりも大きかった。
- ⑤ 2014年から2017年にかけては、弁護士人口の増加率は、会員数が少ない地域は平均よりも小さくなっている。
- ⑥ 函館など弁護士人口が減少した地域もあり、ほとんど人口が増えていない弁護士会も散見される。
- ⑦ 統計上は顕著ではないものの、関西地域では、奈良、滋賀、和歌山では弁護士数の増加はほぼ停滞している。
 - ※ 最近では人口過疎地域では弁護士が増えないという傾向が急激に生じてきていると言えそうである。